



Michigan Newsletter

October 2025

No.13

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. ミシガン州立大学国際学部グローバルラーニング&イノベーションセンターが開所

ページ 1 ~ 2

草の根交流

1. ランシング・コミュニティ・カレッジ元国際学部長 タイ・ソン・キム博士のレガシーを未来へ

ページ 2 ~ 3

ミシガントピック

1. ホイトマー州知事、新年度予算に署名
2. 熱く語られた日本との関係 〜デトロイトローカルテレビ番組にて〜

ページ 4 ~ 6

経済交流

1. ミシガン州立大学国際学部グローバルラーニング&イノベーションセンターが開所

ミシガン州立大学連合日本センター(以下 JCMU)は、ミシガン州にある 15 の州立大学の連合組織で、滋賀県彦根市でミシガン州等からの大学生に日本語プログラムを、滋賀県に暮らす人たちに英語プログラムを提供しており、この JCMU の本部組織がミシガン州立大学の国際学部内にあります。この国際学部内で、4 月以降組織改編の準備が行われており、この度、10 月 9 日に「グローバルラーニング・イノベーションセンター」の開所式が開かれました。

新しいセンターは、複雑な世界を生き抜き、リーダーシップを発揮するためにすべての学生にグローバルな学習機会を提供し、同時に教職員による教育とプログラムの開発を支援することを目的としています。JCMU もこのセンターの傘下に組み込まれました。

今回のような組織再編は非常に稀で、センターの設立は、2024 年に就任したガスカウィッツ学長の指示の下行われたそうです。同様の業務を担う部署を一つの傘下にまとめ、大規模で多業務のユニットを構築することで、役割の重複するポジションを削減、業務が不足している場合には新規採用を行うことができ、さらに、予算不足や資金削減の影響を小さくして財務リスクを回避できるといったメリットがあるそうです。



開所式にて、右からガスカウィッツ学長、アウオクシェ国際学部長、バーティスセンター長

ガスカウィッツ学長からの挨拶では、開所したその先が大事であり、様々な学部の人材を集め、シナジー効果を出し、問題解決に向けて前へ進みたい、さらに、一つの留学経験からさらに経験を広げていき、生徒たちの成功につなげたい、とのメッセージがありました。学長は、今年 5 月に来日し、彦根の JCMU を訪問されており、JCMU が大学にいかにインパクトがあるかがわかり感銘を受けた、との言葉もありました。

この新しいセンターの設置は、ミシガン州立大学全体の 2030 年に向けた戦略計画の一つとして位置づけられているそうです。グローバル学習が同大学の教育の基盤として位置づけられ、グローバルな視野を持った人材の育成が重視されていることに大きな希望を感じます。

草の根交流

1. ランシング・コミュニティ・カレッジ元国際学部長 タイ・ソン・キム博士のレガシーを未来へ

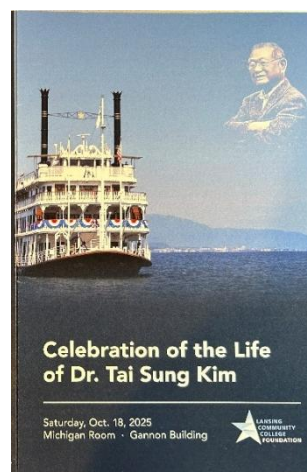
ランシング市のランシング・コミュニティ・カレッジと琵琶湖汽船株式会社とのつながりができたことをきっかけに、遊覧船「ミシガン」を教育の場として、ランシング・コミュニティ・カレッジの学生が乗客サービスを実践し、日本語や日本文化等の授業を受けるというプログラムがありました。

このプログラムを実行に移したランシング・コミュニティ・カレッジ側の立役者として同窓生にも広く知られているのが、元国際学部長のタイ・ソン・キム博士です。キム博士は、琵琶湖汽船株式会社と共にプログラムを実行に移し、多くのミシガンの学生に滋賀訪問の機会を提供し、両県州の文化交流と相互理解、友好親善に大きく貢献され、2002 年には勲四等瑞宝章を受章されています。このキム博士が、2025年7月に死去されたことを受け、セレブレーション・オブ・ライフがランシング・コミュニティ・カレッジにて開かれました。

※セレブレーション・オブ・ライフは、人生の祝福・祝いであり、伝統的な葬儀ではなく、よりパーソナルな儀式で、死を悼むよりも、「その人が生きたこれまでの人生を祝う」という趣旨で開かれるもの。

当日は、150 名以上の元研修生、ご遺族 7 名、琵琶湖汽船株式会社から川戸元社長、川崎取締役、さらに、当時の研修生と関わった日本人の同僚数名が集まりました。参加者によるスピーチやビデオメッセージ、ご遺族からの一言などが紹介され、駐在員は、感謝の気持ちとともに、知事からキム博士ご遺族に向けたレターを読み上げる機会を頂きました。

参加者から何度も聞かれたのは、数々の若者の「人生を変えた」「レガシーを引き継ぐ」といった言葉でした。お悔やみの場というよりは、キム博士の功績をたたえ、その思いを受け継いでいく、という、ミシガン州内外、さらには日本から集まった参加者



参加者に配られたパンフレット。

の強い思いが感じられました。

その後、希望者でキャンパス内の重松記念庭園を散策。いつもは静かな庭園が、大賑わいで、記念写真を撮る姿も見られました。あらためて、このようなプログラムのことを思い出せる場がキャンパス内に目に見える場所として存在していることの価値を感じました。駐在員から、州内にある数々の日本庭園を見ても、とてもよく管理されており、庭園がもうすぐ 20 周年を迎えることなどを元研修生に伝えました。



このプログラムに参加した元研修生や指導助手は 600 人を超えます。今回参加された 150 人には、初期の 1982 年、1983 年の参加者も多く含まれ、「ミシガン」が就航したセレモニーの様子をありありと語ってくださる方もおり、始まったばかりのプログラムのインパクトの大きさ、使命を持って参加されていたことを感じます。とはいえ、もちろん後になって参加した人達や、当日来られなかった人たちの中にも、滋賀県のことを故郷と呼ぶほど大切に思っていてくれる人たちが大勢います。



ミシガンに来る前は、この事業について、滋賀県ミシガン州姉妹県提携 50 周年記念誌で紹介されている情報量しかなく、過去の資料の中の、伝説の事業というイメージでした。今回、参加者から語られるメッセージやスピーチを生で聞く機会を得て、この事業が生き生きとよみがえってきました。そして、事業自体は終了しているものの、関わった皆さんの思いはまだ生きているということを思い知らされました。

滋賀県民もミシガンという船を知っていたとしても、この船にミシガンから来た研修生が乗客にサービスしていたことを知っている人はどれくらいいるのでしょうか。その価値とその影響力を知っている人はごく一部なのではと思います。時代も変わっていますし、復活できるか、そもそも復活すればいいのか私にもわかりませんがこれだけの人達の人生を動かし、今もその思いが生きていることを知った今、この事業を過去の出来事にしたいくない、という思いが強くなります。

2026 年は、重松記念庭園の開園 20 周年を迎えます。今回は州外に滞在中のためビデオメッセージのみでの参加だったランシング・コミュニティ・カレッジのロビンソン学長も、このプログラムの価値をご存じで、興味を持っておられるとのこと。今回、キム博士のおかげでできたこの機会、機運を逃さないよう、関係者と今後の可能性を探っていきたいです。

ミシガンピック

1 ホイットマー州知事、新年度予算に署名

10月7日、ホイットマー州知事は約 810億ドル(約 12兆円)の新年度の州予算に署名されました。

10月1日、16年ぶりに憲法で定められた期限を過ぎても新年度の州予算可決に至らず、1週間の暫定支出法案が可決後、ついに署名に至りました。新年度予算の主なトピックは以下のとおりです。

○教育関連 241億ドル(約 3.6兆円)

生徒一人当たり 10,050 ドル(約 150 万円)という過去最高の前例のない予算額。

- ・州内 140 万人の全生徒への無償給食を継続することで家庭の負担を年間約 1,000 ドル軽減。
- ・コミュニティカレッジ運営に総額 3 億 7,500 万ドル(約 555 億円)を充当し、ミシガン州の 28 のコミュニティカレッジが州全体で手頃な準学士号、編入パスウェイ、熟練職業訓練を提供できるよう支援することで、より多くの若者が高収入の仕事に就けるよう支援。
- ・ミシガン・リコネクト・プログラム※に 4,200 万ドル(約 66 億円)を充当し、25 歳以上の成人学習者に準学士号または熟練職業資格を取得するための授業料無料を継続。
※ホイットマー州知事が 2021 年に立ち上げた「ミシガン・リコネクト」は、25 歳以上の人なら誰でも地元のコミュニティカレッジで授業料無料で準学士号または技術の証明書を取得できる超党派プログラム。
- ・3 歳児向けの「Strong Beginnings」就学前プログラムの継続に 2,500 万ドル(約 4 億円)を充当。
コミュニティ・カレッジの無償化と並ぶホイットマー州知事の主要施策の一つ。
(アメリカでは通常 5 歳になると公立学校(Kindergarten)に入り、初等教育が開始されますが、それまでは、高額の子育て費用やプレスクールに通わせるか、ベビーシッターを雇う、あるいは家庭内で親が世話するなどの選択が迫られます。)
- ・その他、教師の採用と定着率向上、特別支援教育サービスへの支援拡大への拠出。

○経済成長関連

- ・ミシガン州の企業誘致および地域活性化プログラムに 5,940 万ドルを充当(約 87 億円)。
- ・主要産業における新規事業の成長を支援するため、雇用創出サービス、起業家への支援、防衛・航空宇宙分野のイノベーションに 5,650 万ドル(約 84 億円)を拠出。
- ・観光業の活性化、地元企業の支援、そしてミシガン州経済の強化を目的とした、「ピュア・ミシガン」キャンペーンを継続するために 1,700 万ドル(27 億円)を拠出。

○住宅・道路関連

・州道および地方道の改良に向け、今後 4 年間で約 20 億ドル(約 3200 億円)の資金を投入。橋梁や公共交通機関への新規投資も実施。

・ミシガン州住宅・地域開発基金に 5,000 万ドル(約 80 億円)を充当し、手頃な価格の住宅ニーズを支援し、ミシガン州のダウNTOWNおよび周辺地域の活性化を目指す。

○その他

・セルフリッジ空軍州兵基地の設備投資およびインフラ整備事業 2,600 万ドル(約 40 億円)

これにより 23 年度以降の基地整備への総投資額は 6,000 万ドルを突破。同基地への新規航空機確保に向けた州の取り組みにおいて極めて重要な一歩となる。

※空軍州兵の施設であるセルフリッジ基地は、4 月にトランプ大統領が訪問し基地への新たな戦闘機派遣を発表したことで、新たな戦闘機任務が生まれ、基地閉鎖の懸念は払拭。これにより、基地の推定 8 億 5000 万ドルの経済効果と約 5000 人の軍人・民間人の雇用が守られ、ホイットマー州知事が勝利を収めたことでも話題になりました。この基地に関することについては、共和党議員の協力も得て進められています。

ホイットマー州知事は新年度予算への署名後、「この均衡のとれた予算は、人々の生活に真に変化をもたらす、身近な課題を解決するものです。」と述べ、「この予算を実現するために一致団結してくださった両党の議員の皆様は、心から感謝申し上げます。混乱した関税戦略と全国的な政府閉鎖によって生じた多くの不確実性の中で、ミシガン州は物事を成し遂げる方法を示しています。今後数週間、数ヶ月にわたり、私たちはこの勢いをさらに加速させ、雇用を創出し、維持するための手段を共に検討していきます。」とコメントしています。

2 熱く語られた日本との関係 ～デトロイトローカルテレビ番組にて～

アメリカの三大テレビネットワークの一つである CBS の傘下である、ミシガン州デトロイト地域を対象としたローカルニュース「CBS デトロイト」には、ミシガン・マターズという教育、政治など、幅広い分野からゲストやパネリストが登場し、司会者とトークを繰り広げる番組があります。

この番組に、ミシガン州経済開発公社メッサー総裁、在デトロイト日本国総領事館 岸守総領事、バトルクリーク市ベンケ市長が招かれ、ミシガン州における日本の重要性について議論されました。姉妹県である滋賀県についても話題に上りました。概要を紹介します。

○メッサー総裁

日本は歴史的に見ても、ミシガン州の対外直接投資(FDI)市場のトップ 10 に数えられ、415 社の日本企業がミシガン州に進出、約 4 万人のミシガン州民が日本企業に雇用されています。輸出入総額は数十億ドルに上り、極めて重要な関係です。そして、在デトロイト日本国総領事館があるという事実は、日本政府がミシガン州をどれほど重視しているかを示しています。

○ベンケ市長

日本との関係は、70 年代初頭から非常に重要でした。バトルクリーク市はその頃から関係を築き始め、現在、

市には 18 社の日本企業が進出しており、従業員数は約 8,000 人です。そのうち一番大きいデンソーは、2,500 人の従業員を擁しています。

○メッサー総裁

(双方向の貿易の構築について聞かれ、)消費財分野では素晴らしい関係を築いています。ですから、その貿易を継続していくことが重要です。医療機器分野でもチャンスがあります。ストライカー社(ミシガン州カラマズー本社を置く多国籍医療技術企業)は東京に工場を持っています。また、ドミノ・ピザ(ミシガン州アナーバーに本社)は日本で大きな存在感を持っています。

私たちの優位性とモビリティは、サプライヤーを通して、あるいは OEM(製造業者が他社ブランドの製品を製造すること)を通して発揮されると思います。

○岸守総領事

(何が日本企業にとって魅力的なのかを聞かれ、)ここには 2 つのキーワードがあると思います。

昨年の 12 月にホイットマー州知事にお会いした際、彼女は日本企業について前向きな話をしてくれました。そしてもう 1 つは姉妹州についてです。ミシガン州と滋賀県は姉妹県州関係を結んでいて、もう 60 年近くになります。

また、日本の企業が、スタートアップとしてデトロイトに拠点を置くことに決めました。職人技とイノベーションが、ミシガンと日本の未来の鍵です。この企業がイノベーション・スタートアップの中心地であるシリコンバレーではなく、ミシガン・セントラルとニューラボを選んだのは、製造業に特化しているからです。シリコンバレーは AI、ソフトウェアが中心ですが、ミシガンを選んだこの企業は、フォードや GM といった日本の OEM メーカーと協力する計画も持っています。

○メッサー総裁

(オハイオ州のような非常に積極的な州との競争がどれほど激しいのかを司会者に尋ねられ、)10 年前よりずっと競争が激しいと思います。関係の維持と発展が重要であり、多くの州が頻繁に日本を訪れています。私たちは、日本と深いビジネス関係だけでなく、文化的な関係も築くことができ幸運です。中西部で最大級の補習授業校(滞在中の日本人の子供に日本語教育を施す施設)の一つがノバイ市にあるという事実、そして何世代にもわたり、バトルクリーク市やノバイ市、そしてミシガン州各地に日本人の友人や隣人がいたという事実は、本当に大きな助けになっています。しかし、競争は非常に激しいです。資本は流動的で、企業もそれを理解していると思います。